

第101回計画推進評価部会における意見と県の対応

資料3

NO	委員名	意見	対応	記載内容等
1	原嶋委員	K P I は完璧ではないが、県民からも色々ご意見をいただいて、決めてきたわけであって、それは1つの成果である。K P I を最初のステップ、土台として、K P I ではカバーできないことをどのように考えていくべきか、ということを感じた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行管理（案）に反映しました。 	<p>総合的な評価の考え方を整理し、進行管理（案）に反映しました。</p> <p>< 進行管理（案） P4 > 2 「実施計画」の評価 （4）評価の内容について ア 総合的な評価</p>
2	国崎委員	なぜこの数値が出たのか、その時の情勢や社会構造など様々な状況を踏まえてこういう結果になったというような分析が必要であって、4つの評価区分が必要か。評価についての固定観念を植え付けていくことが必要なのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行管理（案）、様式イメージに反映しました。 ・ なお、評価区分については、分かりやすさの観点から、引き続き4段階評価を示すこととし、評価に至った分析をあわせて示すこととします。 	<p>総合分析の考え方を整理し、進行管理（案）、様式イメージに反映しました。また、4段階評価の考え方を整理し、進行管理（案）に反映しました。</p> <p>< 進行管理（案） P4 > 2 「実施計画」の評価 （4）評価の内容について ア 総合的な評価</p> <p>< 様式イメージ P2 > ○県による一次評価 ▼総合分析</p>
3	矢島委員	K P I は進捗しているけれども、アウトカムが伸びないということは往々にしてあり、社会環境の変化等も含めた分析というのが非常に重要になると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行管理（案）、様式イメージに反映しました。 	<p>総合分析の考え方を整理し、進行管理（案）、様式イメージに反映しました。</p> <p>< 進行管理（案） P4 > 2 「実施計画」の評価 （4）評価の内容について ア 総合的な評価</p> <p>< 様式イメージ P2 > ○県による一次評価 ▼総合分析</p>

NO	委員名	意見	対応	記載内容等
4	中西委員	評価報告書の様式について、評価期間の社会環境の変化や、部会で出た意見などを、箇条書きなどで構わないので、K P I が設定されていない項目などについても、もう少し質的なものを書く部分があった方がいいと思う。	・進行管理（案）、様式イメージに反映しました。	総合分析の考え方を整理し、進行管理（案）、様式イメージに反映しました。 <進行管理（案） P4> 2 「実施計画」の評価 （4）評価の内容について ア 総合的な評価 <様式イメージ P2> ○県による一次評価 ▼総合分析
5	米田委員	評価というと良い点を取らなければという意識を持ちがちである。現状確認と見直しが目的ということをしっかりと確認し、県民の方々にもお伝えしていかないと、4段階評価で「遅れている」では駄目ではないか、という話になりがちである。遅れていることを把握し、その理由を確認して改善する、そのための評価だと伝わるようにしていかなければいけない。	・進行管理（案）、様式イメージに反映しました。	総合的な評価の考え方を整理し、進行管理（案）、様式イメージに反映しました。 <進行管理（案） P4> 2 「実施計画」の評価 （4）評価の内容について ア 総合的な評価 <様式イメージ P2> ○県による一次評価 ▼総合分析
6	原嶋委員	K P I の達成状況と4つの評価区分の結びつきがはっきりしないという点で多角的評価、総合的な評価が結果的に客観性を損なってしまうというケースがしばしばある。K P I がどれくらい達成されていれば、4段階のうちどれに該当するのかという、原則的な考え方について、共通の物差しを示すべきと考える。	・進行管理（案）に反映しました。	4段階評価の考え方を整理し、進行管理（案）に反映しました。 <進行管理（案） P4> 2 「実施計画」の評価 （4）評価の内容について ア 総合的な評価

NO	委員名	意見	対応	記載内容等
7	原嶋委員	<p>関連データや主要取組結果を加えて評価すること自体は賛成だが、どうしても県の自己評価は甘くなりがちで、いい方向に向ける指標や取組を持ってきてしまいがちになる恐れもある。関連する統計データや取組姿勢については全く例示もなく、ある意味恣意的にも選べてしまうので、どう選んだか、どう考慮するかということも考える必要がある。</p>	<p>・進行管理（案）に反映しました。</p>	<p>関連する統計データの考え方を整理し、進行管理（案）に反映しました。</p> <p><進行管理（案） P5> 2 「実施計画」の評価 （4）評価の内容について ア 総合的な評価 （ア）関連する統計データ</p>
8	堀越委員	<p>福祉分野関連の統計データを出そうとすると、かなり低い数値になって、頑張っていないということを露呈することになり、国や他の都道府県にしてもカモフラージュしがちである。構成施策に関連する統計データに関しては、実態を表すような評価のためのデータを提示していくことを希望する。</p>	<p>・進行管理（案）に反映しました。</p>	<p>関連する統計データの考え方を整理し、進行管理（案）に反映しました。</p> <p><進行管理（案） P5> 2 「実施計画」の評価 （4）評価の内容について ア 総合的な評価 （ア）関連する統計データ</p>
9	河野委員	<p>アウトカムが短期、中期、そして、最終という形で、全てのものが同じ時期に実現し得るものではなく、政策の実用性の中で、アウトカムが段階的に現れていく性質であるということを踏まえながら評価を進めていくことが有用だと考える。</p>	<p>・進行管理（案）、様式イメージに反映しました。</p>	<p>経年変化の把握の考え方を整理し、進行管理（案）、様式イメージに反映しました。</p> <p><進行管理（案） P5> 2 「実施計画」の評価 （4）評価の内容について ア 総合的な評価 （ウ）経年変化の把握</p> <p><様式イメージ P2、P3～P8> ○県による一次評価 ▼総合分析 ・K P I の平均達成率 ・指標の動向 ▼構成施策の取組状況 ・K P I の達成状況 ・関連する統計データ ・主な事業の取組結果</p>

NO	委員名	意見	対応	記載内容等
10	原嶋委員	評価するというのと、伝えるというのを整理して検討した方がいいのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行管理（案）に反映しました。 	<p>評価報告書の概要版の作成など、評価結果の公表の考え方等を整理し、進行管理（案）に反映しました。</p> <p>< 進行管理（案） P5 ></p> <p>2 「実施計画」の評価</p> <p>（5）評価結果の公表について</p>
11	山岸委員	この評価をどんな人たちに伝えようとしているのかという具体的なターゲットを想定しているか。今回作った評価報告書をきちんと若者など様々な人たちにってもらうために、1パターンではなくて様々なパターンを作るべきではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行管理（案）に反映しました。 	<p>評価報告書の概要版の作成など、評価結果の公表の考え方を整理し、進行管理（案）に反映しました。</p> <p>< 進行管理（案） P5 ></p> <p>2 「実施計画」の評価</p> <p>（5）評価結果の公表について</p>
12	米田委員	評価報告書に、県民に馴染みのない言葉であるロジックモデルやKPIという言葉が記載されていると、自分たちとは関係のないものというように感じられてしまうように思う。毎年、パブリックコメントで評価に対して県民の意見を求めていく時にこのような専門用語に対する解説を検討してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行管理（案）に反映しました。 	<p>専門用語の解説について、進行管理（案）に反映しました。</p> <p>< 進行管理（案） P5 ></p> <p>2 「実施計画」の評価</p> <p>（5）評価結果の公表について</p>
13	中田委員	県がやっていることに対して、意見を聞く場を設け、文章を分かりやすくするために努力するなど、県民寄りに考えてもいいのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行管理（案）に反映しました。 	<p>評価報告書の概要版の作成など、評価結果の公表及び県民の意見の考え方を整理し、進行管理（案）に反映しました。</p> <p>< 進行管理（案） P5, P6 ></p> <p>2 「実施計画」の評価</p> <p>（5）評価結果の公表について</p> <p>（6）県民の意見について</p>
14	河野委員	ロジックモデルそのものが、改善を前提としたものであり、取組を実施していく中で、変える可能性があるということ、柔軟な政策展開に対応して改善を加えることが有効である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価を実施するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。 	/
15	矢島委員	目標数値の高低が混在していることにも留意して評価する必要があるのではないかな。また、目指す2040年と計画4年間の進捗ということを踏まえた両方向の分析視点が必要ではないかな。また、アウトカムに近づくほどどうしても住民の意識調査などでないと表現ができないものが多くなるので、実態データと意識のデータのバランスも重要になってくると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価を実施するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。 	/

NO	委員名	意見	対応	記載内容等
16	国崎委員	例えば、訓練の参加人数をK P Iとして設定している場合、「参加人数」で評価するのではなく、参加者の年齢層を把握するなど、今後の戦略的な立案に繋がるような統計データの取り方も重要ではないか。	・評価を実施するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。	
17	坪谷委員	新かながわグランドデザインの実施計画の中に、『「ジェンダー」「ともに生きる（ともいき）」「当事者目線」の視点を「3つの主流化」として、いつも意識していきます』という表記があるが、これはとても大事な視点だと思う。	・評価を実施するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。	
18	山田委員	評価報告書を読んだ人が、何か自分もアクションしようとか、行動に繋がるように、少しずつでもいいので、実際に参加した人の声などがきちんと感じられるものになるといい。	・評価結果の公表及び県民意見の募集を実施するプロセスの中で、ご意見の趣旨を生かしていきます。	
19	中田委員	K G Iが達成できた時に県民の方々から、より安心した生活が送れていると言ってもらえるかどうかというところも心配である。県民の方々に頻繁に説明する場を設ける方がよいと思う。	・評価結果の公表及び県民意見の募集を実施するプロセスの中で、ご意見の趣旨を生かしていきます。	
20	米田委員	福祉分野や対人支援の部分など、参加型評価を検討してはどうか。	・評価結果の公表及び県民意見の募集を実施するプロセスの中で、ご意見の趣旨を生かしていきます。	

第102回計画推進評価部会における意見と県の対応

NO	委員名	意見	対応	記載内容等
1	山岸委員	資料2の進行管理（案）について、「1 基本的な考え方」の「（4）状況に応じた政策評価等」の冒頭に、「コロナ禍」という言葉が使われているが、例えば「新型コロナウイルス感染症拡大」とか「COVID-19」など、そのような言葉の方がふさわしいのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ・進行管理（案）に反映しました。 	<p>ご意見を踏まえ、進行管理（案）の修正を行いました。</p> <p><進行管理（案） P2> 1 基本的な考え方 （4）状況に応じた政策評価等</p>
2	国崎委員	二次評価に非常に重みがあって重要とのことだが、現状の様式イメージのレイアウトや内容では、二次評価が非常に浅くとらえられてしまうような気がする。県民の皆様にも、最終評価の重みがあまり伝わらないのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ・様式イメージに反映しました。 	<p>ご意見を踏まえ、様式イメージの修正を行いました。</p> <p><様式イメージ P2> 最終評価（総合計画審議会による二次評価）</p>
3	矢島委員	今後、評価を丁寧に進めていくに当たって、県の中で進めていく上で、できるだけ業務を効率化して進めてもらえるよう、検討してもらいたい。 現状を踏まえ、目標が低くならざるを得なくなっているところは、KPIが達成したとしても十分進んでいると言い難いところもあると思うので、そのような部分は定性的なコメントで補充してもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価を実施するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。 	/
4	河野委員	マンパワーが減少している中で行政負担は拡大する傾向にあり、費用対効果を意識しながら分析評価を実現することは容易ではないため、有用なデータを収集・蓄積し、より使いやすいデータの蓄積基盤を作っていくということが重要になる。組織外との連携や、国からの支援といった外部のノウハウ・スキルの活用の視点を検討していくことが有用なのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価を実施するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。 	/
5	伊達委員	施策の費用対効果について、税金は非常にポジティブになっている中で、これから税金がどう変わっていくのか、どのような政策的支出経費がかけられるのか。進行管理の中でしっかりと裏付けを持って評価をされていくべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価を実施するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。 	/

NO	委員名	意見	対応	記載内容等
6	伊達委員	量的評価をすることによってどのようなデメリットが生じるのか。アクションを起こすことによる量的変化がどのような因果関係を持つのか。このようなところをしっかりと整理した上で、質的な評価として定性的なところをどう見るのか。ロジックモデルについて、質的評価のところ、破綻してるように見えるけど実はこういう形で考えているんだといったようなところは補完する必要がある、説明責任を果たすべきだと思う。	・評価を実施するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。	
7	原嶋委員	県民への伝え方について、ホームページへの掲載やパンフレット（概要版）などを作成するということが、知事はキャスター出身ということでテレビなどの方も強いと思う。テレビやSNSを活用など知事の特長も生かして、県民への伝え方を工夫していただければと思う。	・評価結果の公表及び県民意見の募集を実施するプロセスの中で、ご意見の趣旨を生かしていきます。	
8	伊達委員	資料説明の時間が長かったり、資料配付するまでの期間について、資料を配付してから読み込むまでの期間が非常に短いというような問題があったり、いろいろなところに、進行上の問題がある。そのようなところも工夫していただきたい。	・今後の会議運営の参考とさせていただきます。	